

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第51週
(12月14日～12月20日)

- * 2015年12月24日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「インフルエンザ脳症」も掲載しています。

平成27(2015)年12月25日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

定点把握対象疾患 報告数 2015年51週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		48週	49週	50週	51週		
小児科	RSウイルス感染症	310	350	356	276	261	264
		1.19	1.35	1.36	1.06		
	咽頭結膜熱	98	121	137	147		
		0.38	0.47	0.52	0.56		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	643	848	859	1,048		
		2.47	3.27	3.29	4.02		
	感染性胃腸炎	1,974	3,117	3,734	3,957		
		7.59	12.03	14.31	15.16		
	水痘	167	213	201	267		
		0.64	0.82	0.77	1.02		
	手足口病	56	42	30	27		
		0.22	0.16	0.11	0.10		
	伝染性紅斑	94	124	107	103		
		0.36	0.48	0.41	0.39		
突発性発しん	137	142	113	132			
	0.53	0.55	0.43	0.51			
百日咳	6	2	6	5			
	0.02	0.01	0.02	0.02			
ヘルパンギーナ	13	15	11	13			
	0.05	0.06	0.04	0.05			
流行性耳下腺炎	171	155	153	196			
	0.66	0.60	0.59	0.75			
川崎病 ^{*1}	3	6	2	6			
	0.01	0.02	0.01	0.02			
不明発しん症 ^{*1}	27	13	16	18			
	0.10	0.05	0.06	0.07			
インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	75	79	181	231	411	419
		0.18	0.19	0.44	0.56		
眼科	急性出血性結膜炎		1			38	39
			0.03				
	流行性角結膜炎	40	29	24	32		
		1.03	0.74	0.63	0.84		
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}		2		1	25	25
			0.08		0.04		
	無菌性髄膜炎	1	1	2			
		0.04	0.04	0.08			
	マイコプラズマ肺炎	29	40	30	32		
		1.16	1.60	1.25	1.28		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		2	2	1			
		0.08	0.08	0.04			
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}		2	1	1			
		0.08	0.04	0.04			
インフルエンザ入院	1	2		2			
	0.04	0.08		0.08			

2015/12/24集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年平均より高い値で推移している。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加が続いている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年51週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	45	1		31	1			1			
6～11か月	69	9	4	243	6		2	35			
1歳	97	29	22	625	11	9	2	70		2	4
2歳	41	22	35	415	13	3	6	20		2	7
3歳	17	14	79	392	30	7	7	2		2	15
4歳	4	18	126	391	37	1	22	1		1	21
5歳	1	10	144	293	42	2	14	2		1	27
6歳	1	17	136	220	31	3	11				25
7歳		11	123	191	39		6				27
8歳	1	3	105	152	25	2	9	1			22
9歳		5	78	141	10		9			1	20
10～14歳		5	137	329	19		12			2	20
15～19歳		1	15	71							2
20～29歳		2	44	463	3		3		5	2	6
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	276	147	1,048	3,957	267	27	103	132	5	13	196
先週比	-80	10	189	223	66	-3	-4	19	-1	2	43

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月	1							1			
6～11か月	3	2	1								
1歳		2	5		1			2			
2歳	1	3	8		4			2		1	
3歳		3	15		2			2			
4歳		5	12					2			
5歳		1	14		2			1			
6歳			14		1			2			
7歳		1	29					2			
8歳			22		1			3			
9歳			14					1			
10～14歳	1		25		1			10			
15～19歳			8		1						
20～29歳		1	16		3						
30～39歳			18		9			1			
40～49歳			17		4	1		2			
50～59歳			5		1						
60～69歳			6		1			1			
70～79歳			1		1						1
80歳以上			1						1		1
合計	6	18	231		32	1		32	1	1	2
先週比	4	2	50		8	1	-2	2	-1		2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2015年51週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	0.33		1.33	10.00			0.33				
中央区	0.33	0.67	2.67	18.00	0.67		0.33	0.33			
みなと	1.50	1.83	5.17	18.00	0.83		0.33	0.50			1.17
新宿区	1.50		2.00	9.25	0.75			0.50			
文京	0.25	1.75		13.75	3.00		0.25	0.25		0.25	0.25
台東	0.25		2.25	19.50			0.75	0.75			1.50
墨田区	1.00	0.20	3.00	15.60	1.00	0.40	0.20				0.20
江東区	2.00	0.44	4.00	31.56	1.56		0.78	0.22			0.67
品川区	0.38		1.75	13.63	0.63	0.13	0.13	0.50			0.75
目黒区	1.00	0.20	3.60	19.60	1.40		0.40	0.20			
大田区	0.92	0.69	5.00	17.15	0.69	0.15	0.31	0.62	0.08		0.23
世田谷	1.38	1.06	6.50	18.69	0.63		0.38	0.25			0.25
渋谷区	0.25		1.00	12.00	1.25		0.25	0.25			0.25
中野区	0.50	0.17	2.17	14.33	0.50	0.67	0.33	0.67			0.17
杉並	0.50	0.20	3.00	11.20	0.70	0.20	0.20	0.40			
池袋	2.50		1.50	6.25				0.25			
北区	0.14	0.71	3.71	13.71	0.43		0.14	0.29			1.29
荒川区	2.00	1.25	8.75	24.50	4.25	0.50		1.25	0.50	0.25	2.25
板橋区	0.60		1.10	10.10	0.20	0.20		0.30		0.10	0.90
練馬区	0.69	0.31	8.15	12.77	1.00		0.15	0.46			1.15
足立	0.85	0.54	1.92	18.23	0.69	0.31	0.69	0.62			0.69
葛飾区	0.25	0.38	2.00	18.75	0.88	0.13	0.63	0.50		0.13	0.13
江戸川	0.75	0.25	4.92	16.92	1.00		1.00	0.42		0.25	1.83
八王子市	2.09	0.91	4.91	19.64	1.36	0.18	0.55	0.55			1.45
町田市	0.57		7.43	22.29	1.14		0.43	0.71			0.29
西多摩	0.63	0.25	3.75	9.50	0.75		0.50	0.25		0.13	0.88
南多摩	1.89	0.11	2.78	11.22	1.78		0.44	0.56		0.11	0.67
多摩立川	1.57	0.57	4.29	10.64	1.50		0.64	0.29			0.36
多摩府中	1.00	1.14	3.43	12.24	1.57	0.19	0.14	1.00	0.10		1.24
多摩小平	1.80	1.33	6.93	12.67	1.00	0.07	0.73	1.00		0.27	1.60
島しょ	2.00										
東京都	1.06	0.56	4.02	15.16	1.02	0.10	0.39	0.51	0.02	0.05	0.75

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			0.25					2.00			
中央区			0.60		2.00						
みなと	0.17		0.11						1.00		
新宿区			0.33		0.50			2.00			
文京			0.57								
台東		0.25	2.83								
墨田区			0.38			1.00		1.00			
江東区			1.14								
品川区		0.13									
目黒区			1.25								
大田区	0.08		0.70		1.00						
世田谷		0.19	1.24		1.50			1.00			
渋谷区			0.14		4.00			3.00		1.00	
中野区			0.20		2.00						
杉並		0.20	0.44								
池袋			0.33					1.00			
北区			0.18		2.00						
荒川区			0.14								
板橋区		0.30	0.19					1.00			
練馬区			0.24		1.50						
足立	0.08		0.20		1.50						
葛飾区		0.13	1.15		3.00			5.00			
江戸川			0.50		0.50						
八王子市		0.09	0.17		0.50			2.00			
町田市	0.29	0.57	0.08								
西多摩			0.29		1.00			3.00			
南多摩			1.71								
多摩立川			0.71					1.00			
多摩府中		0.10	0.41		0.33			1.00			0.67
多摩小平	0.07		0.70		2.00			1.00			
島しょ											

東京都	0.02	0.07	0.56		0.84	0.04		1.28	0.04	0.04	0.08
-----	------	------	------	--	------	------	--	------	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年51週

	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	1		4	30			1				
中央区	1	2	8	54	2		1	1			
みなと	9	11	31	108	5		2	3			7
新宿区	12		16	74	6			4			
文京	1	7		55	12		1	1		1	1
台東	1		9	78			3	3			6
墨田区	5	1	15	78	5	2	1				1
江東区	18	4	36	284	14		7	2			6
品川区	3		14	109	5	1	1	4			6
目黒区	5	1	18	98	7		2	1			
大田区	12	9	65	223	9	2	4	8	1		3
世田谷	22	17	104	299	10		6	4			4
渋谷区	1		4	48	5		1	1			1
中野区	3	1	13	86	3	4	2	4			1
杉並	5	2	30	112	7	2	2	4			
池袋	10		6	25				1			
北区	1	5	26	96	3		1	2			9
荒川区	8	5	35	98	17	2		5	2	1	9
板橋区	6		11	101	2	2		3		1	9
練馬区	9	4	106	166	13		2	6			15
足立	11	7	25	237	9	4	9	8			9
葛飾区	2	3	16	150	7	1	5	4		1	1
江戸川	9	3	59	203	12		12	5		3	22
八王子市	23	10	54	216	15	2	6	6			16
町田市	4		52	156	8		3	5			2
西多摩	5	2	30	76	6		4	2		1	7
南多摩	17	1	25	101	16		4	5		1	6
多摩立川	22	8	60	149	21		9	4			5
多摩府中	21	24	72	257	33	4	3	21	2		26
多摩小平	27	20	104	190	15	1	11	15		4	24
島しょ	2										
東京都合計	276	147	1,048	3,957	267	27	103	132	5	13	196

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			1					4			
中央区			3		2						
みなと	1		1						1		
新宿区			4		1			4			
文京			4								
台東		1	17								
墨田区			3			1		1			
江東区			16								
品川区		1									
目黒区			10								
大田区	1		14		1						
世田谷		3	31		3			2			
渋谷区			1		4			3		1	
中野区			2		2						
杉並		2	7								
池袋			2					1			
北区			2		2						
荒川区			1								
板橋区		3	3					1			
練馬区			5		3						
足立	1		4		3						
葛飾区		1	15		3			5			
江戸川			9		1						
八王子市		1	3		1			2			
町田市	2	4	1								
西多摩			4		1			3			
南多摩			24								
多摩立川			15					1			
多摩府中		2	13		1			3			2
多摩小平	1		16		4			2			
島しょ											
東京都合計	6	18	231		32	1		32	1	1	2

定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
11/24	無菌性髄膜炎	1M	咽頭拭い液	ライノウイルス
11/26	扁桃炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス
11/24	手足口病	12	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数
48週はインフルエンザウイルスが検出されませんでした。

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年48週				
2015-2016年 シーズン累計*			6	2

* 2015-2016年シーズンの開始は第36週(2015年8月31日～)

<感染症豆知識>

インフルエンザ脳症

インフルエンザウイルスは急性呼吸器感染症の原因として一般的であるが、時として急性脳症を引き起こし致命的となることが知られている。インフルエンザウイルスによる急性脳症の発症率は日本で年間60～500人程度であり、かつては30%もの致死率であったが、「厚生労働省インフルエンザ脳症ガイドライン」が公表されてから近年の致死率は8%程度まで低下してきている。その一方で後遺症を残すものが多く、重篤な疾患である。

これらのことより、インフルエンザ脳症では、早期診断と集中治療開始の時期をのがさないことが重要である。

インフルエンザ脳症の臨床症状は、非特異的な発熱・頭痛といった flu-like syndrome の症状で始まる事が多く、不機嫌、啼泣、腹部膨満、悪心、嘔吐等の症状がみられる。その後、神経障害に起因する症状が急激にあるいは緩徐に出現し始める。意識障害、奇異行動、けいれん、麻痺である。神経症状は、停滞したり進行したりすることが常である。

厚生労働省森島斑の調査では、けいれんが最も多く71.6%に認められる。けいれん発症前に、幻視、幻聴、おびえ、感情失禁など大脳辺縁系の機能的興奮の症状が半数近くみとめ、けいれん前の前期診断に有用である。また脳波においては、びまん性高振幅徐波、血清の interleukin - 6 (IL - 6) が各種の生化学検査結果に先立ち、早期に上昇しており、熱性せん妄とは異なる病態である。しかし熱性せん妄様の訴えは脳症初期の可能性があり、経過観察が必要である。

(文責 東京小児科医会 武隈 孝治)